

上田市文化財調査報告書第93集

市内遺跡

平成14年度市内遺跡発掘調査報告書

2003.3

上田市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第93集

市内遺跡

平成14年度市内遺跡発掘調査報告書

2003. 3

上田市

上田市教育委員会

例　言

- 1 本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う平成14年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業・県補助事業として、上田市（上田市教育委員会事務局生涯学習課文化財係）が実施した。
- 3 現地調査は、生涯学習課文化財係尾見智志が行った。
- 4 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興・竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃國分寺資料館に保管してある。
- 6 本調査にあたり、開発施工主・担当課に調査実施に係る調整等、格段の御協力をいただいた。

7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教育長　　我妻忠夫（平成14年12月20日退任）・森大和（平成14年12月24日着任）

教育次長　内藤政則

生涯学習課長　塩野崎利英（平成14年5月19日退任）・宮下省二（平成14年5月20日着任）

文化財係長　細川修（平成14年5月19日退任）・小林浩（平成14年5月20日着任）

文化財係　中沢徳士・尾見智志・塩崎幸夫・久保田敦子

8 本調査に係る作業は次のとおり分担をした。

現　地　調　査　　尾見

整　理　作　業　　鹿島すみ江

写　　真　　尾見

本書執筆・編集　　尾見

< 目 次 >

(1) 染屋台条里水田跡遺跡（共同住宅建設）	1
(2) 染屋台条里水田跡遺跡（公民館建設）	3
(3) 金井裏遺跡（店舗建設）	5
(4) 染屋台条里水田跡遺跡（店舗建設）	7
(5) 下宿在家遺跡（道路改良事業）	9
(6) 塩田城跡・上町遺跡（個人住宅建設）	11
(7) 比蘭樹遺跡（県営住宅建設）	13
(8) 林之郷遺跡群（道路改良事業）	15
(9) 常入遺跡群（体育馆建設）	17
(10) 染屋台条里水田跡遺跡（保育園建設）	19
(11) 染屋台条里水田跡遺跡（共同住宅建設）	21
平成14年度試掘調査地点位置図	23
写真図版	26
報告書抄録	30

(1) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字中央東
2 原 因	共同住宅建設
3 調査日	平成14年5月24日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。今回も事業主の御協力により試掘調査を行うことができた。

平成14年4月30日に現地調査で工事範囲を確認し、試掘の準備に取りかかった。
平成14年5月24日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr01とTr02を設定して調査を行った。その結果、条里水田の痕跡及びその他の遺構・遺物等も確認できなかった。



基本土層

Tr 01(東面)	
1	0
4	34
5	58

Tr 01(西面)	
1	0
3	33
4	20
5	58

Tr 02	
1	0
2	7
4	18
5	36

- 1層：耕作土
- 2層：溶脱層
- 3層：灰茶褐色土層
- 4層：黄褐色土層（粘性が強い）
- 5層：灰白色土層（地山）

第1図 染屋台条里水田跡遺跡（共同住宅建設）

(2) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字上野
2 原因	公民館建設
3 調査日	平成14年6月7日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。隣接するインターチェンジ部分は長野県埋蔵文化財センターにより試掘が行われており、若干の土器小片が出土したのみで、遺構・遺物等は確認できていない。

平成13年10月12日に保護協議を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。平成14年4月10日に再度の協議を行い、土地開発公社による土地取得をうけて平成14年6月7日に試掘調査を行った。遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr01とTr02を設定して調査を行った。その結果、条里水田の痕跡及びその他の遺構・遺物等も確認できなかった。

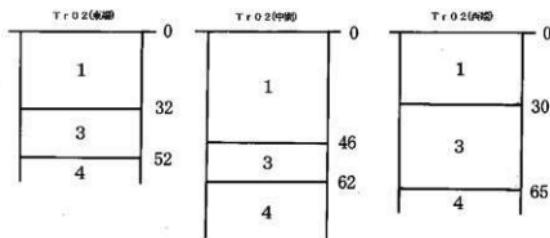


基本土層

Tr 01(東端)		0
1		
2		35
4		43

Tr 01(中間)		0
1		
2		37
4		47

Tr 01(内端)		0
1		
4		66



1層：耕作土

2層：溶脱層

3層：黄茶褐色土層（シルト質）

4層：灰白色土層（シルト質・地山）

第2図 染屋台条里水田跡遺跡（公民館建設）

(3) 金井裏遺跡

1 調査地	上田市大字上田
2 原因	店舗建設
3 調査日	平成14年6月12日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

金井裏遺跡は、太郎山山麓の黄金沢扇状地の扇頂部で蛇沢の河岸段丘上に位置する。東側には、沢筋が形成されている。1985年には、上田バイパスの建設に伴い発掘調査が行われており、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居が2件確認された。1996年には、SBC上田ハウジングパークの建設に伴い発掘調査が行われて弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居が1件確認された。

平成14年2月13日にSBC上田ハウジングパークの拡張工事計画による問い合わせが施主側からあり、平成14年6月12日に試掘調査を行った。遺構・遺物は確認できなかつた。

調査の結果

Tr01・02・03を設定して調査を行った。Tr02・03では埋土がバックホーの爪が届かなくなるほど厚く埋め立てられていた。このことから、当該地点は沢筋が通っていたものを埋め立てたものと思われる。いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認できなかつた。



基本土層

Tr 01	0
1	24
2	
4	136

Tr 02(東面)	0
1	29
4	43
6	

Tr 02(中面)

1	0
27	
5	

Tr 02(西面)

1	0
48	
5	

- 1層：耕作土
- 2層：埋土（埋立て土・礫を含む）
- 3層：黄褐色土層（粘性をもつ）
- 4層：茶褐色土層（シルト質）
- 5層：灰白色土層（粘性をもつ）
- 6層：礫層（地山）

第3図 金井裏遺跡（店舗建設）

(4) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字住吉
2 原因	店舗建設
3 調査日	平成14年7月1日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。隣接するインターチェンジ部分は長野県埋蔵文化財センターにより試掘が行われており、若干の土器小片が出土したのみで、遺構・遺物等は確認できていない。

平成14年6月24日に店舗建設に伴う照会が施主側からあり、平成14年7月1日に試掘調査を行った。遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

T r 0 1 • 0 2 • 0 3 を設定して調査を行った。その結果、条里水田の痕跡及びその他の遺構・遺物等も確認できなかった。



基本土層

Tr01(北端)	
1	0
2	10
3	15
5	38

Tr01(中央)	
1	0
2	12
4	20
5	30

Tr01(南端)	
1	0
4	12

Tr02	
1	0
2	18
3	28
4	32
5	54

Tr03	
1	0
2	94
3	112
4	130

Tr01・Tr02

- 1層：耕作土
- 2層：溶脱層
- 3層：茶褐色土層
- 4層：灰褐色土層
- 5層：灰茶褐色土層（地山）

Tr03

- 1層：埋立て土
- 2層：耕作土層（旧水田）
- 3層：溶脱層（旧水田）
- 4層：灰茶褐色土層（地山）

第4図 染屋台条里水田跡遺跡（店舗建設）

(5) 下宿在家遺跡

1 調査地	上田市大字古安曾
2 原因	道路改良事業（市道三文寺線）
3 調査日	平成14年7月19日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

下宿在家遺跡は、「上田市の原始・古代文化」によると「東塩田小学校南方の畑地にあり、およそ5,000m²にわたって弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。」としている。

平成13年10月11日に公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議を行い、準備が整い次第、試掘を行うこととした。平成14年7月19日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

T r 0 1 ・ 0 2 ・ 0 3 を設定して調査を行った。T r 0 1 では表土の下に砂礫層があり、T r 0 2 ではシルト質の黄茶褐色土層の下に砂礫層が存在しており、伏流水が滲みだしていくことから尾根川の氾濫原であったことが推定される。T r 0 3 には、上田電鉄の軌道敷跡であり砂礫層より上層は埋土であった。いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認できなかった。



基本土層

	0
1	21
4	48
5	

	0
1	20
2	46
4	

	0
1	44
3	58
4	

- 1層：表土（耕作土及び埋立て土）
- 2層：茶褐色土層（シルト質）
- 3層：黒褐色土層（シルト質・礫が混じる）
- 4層：砂礫層
- 5層：黄茶褐色土層（シルト質）

第5図 下宿在家遺跡（道路改良事業）

(6) 塩田城跡及び上町遺跡

1 調査地	上田市大字前山
2 原因	個人住宅
3 調査日	平成14年7月22日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

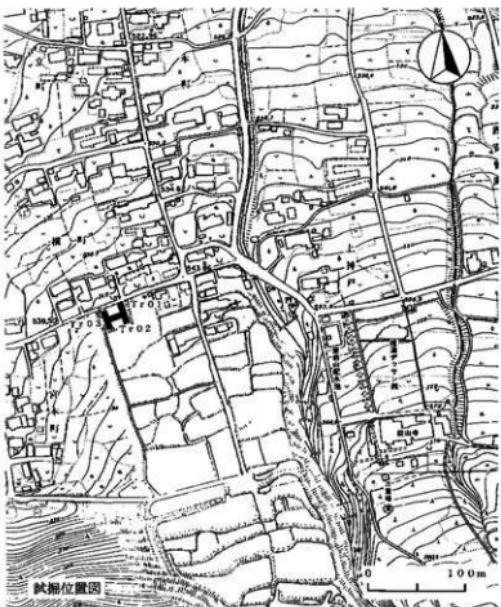
遺跡の環境と経過

当該地は、県指定史跡の塩田城跡と上町遺跡の範囲に該当している。塩田城跡は中世の山城として有名である。上町遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「縄文期の石鏃や石斧、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。」としている。

平成14年5月に県指定史跡の塩田城跡内に個人住宅を建設したいとの問い合わせがあり、平成14年7月22日に試掘調査を行った。

調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3を設定して調査を行った。T r 0 1では、表土の下に当該地を造成した埋土があり、その下層には調査地域の押し出し地形を形成する礫層があった。T r 0 2・0 3も同様であった。当該地を塩田城跡全体の地形からみると、旧宅地造成に伴って土地を地山層付近まで削平していると思われる。どのトレンチからも、上町遺跡に伴う縄文・弥生・古代等の遺構・遺物は確認できなかった。また、塩田城跡に伴う遺構・遺物も確認できなかった。



基本土層

	0
1	29
2	45
6	

	0
1	18
2	

	0
1	24
6	

T r 02 (中間)	0
1	6
3	
5	44
6	50

T r 02 (内側)	0
1	26
2	
6	61

T r 03 (北側)	0
1	14
3	
5	84

T r 03 (中間)	0
1	36
4	
6	66

1層：表土（埋立て土）

2層：黒褐色土層（埋立て土・廃材が混じる）

3層：礫層（埋立て土・ゴミ等混じる）

4層：茶褐色土層（搅乱・ゴミ等混じる）

5層：黒褐色土層

6層：疊層（地山）

T r 03 (南側)	0
1	38
6	

第6図 塩田城跡・上町遺跡（個人住宅建設）

(7) 比蘭樹遺跡

1 調査地	上田市大字別所温泉
2 原 因	県営別所団地建替事業
3 調査日	平成14年11月11日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを5本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

比蘭樹遺跡は、「上田市の原始・古代文化」によると「縄文早期の繊維土器・打製石斧・磨製石斧・石匙が出土している。分布範囲は判然としない。」としている。当該地は、平成10年8月6日と平成12年9月13日にも団地建替事業に伴って試掘調査が行われております、いずれの調査においても遺構・遺物は確認されなかった。

今回も、平成14年10月23日の公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議に基づき平成14年11月11日に試掘調査を実施した。遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果

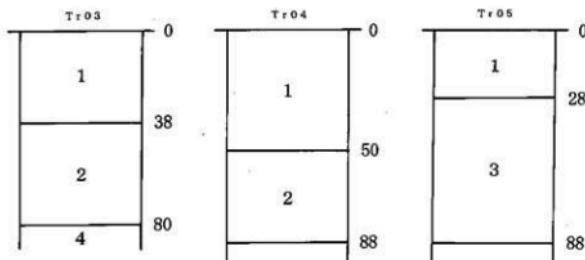
T r 0 1 • 0 2 • 0 3 • 0 4 • 0 5 を設定して調査を行った。いずれのトレンチも押し出し地形の当該地区を平坦に造成した痕跡が地山まで達しており、以前は地山直上の面で宅地や水田が営まれていたことが確認できた。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できなかった。



基本土層

	Tr 01	0
1		23
3		53
4		78
5		

	Tr 02	0
1		24
3		49
4		



- 1層：表土（埋立て土）
- 2層：溶脱層
- 3層：黄褐色土層（灰褐色土を含む。粘性が強い）
- 4層：茶褐色土層
- 5層：礫層

第7図 比蘭樹遺跡（県営住宅建設）

(8) 林之郷遺跡群

1 調査地	上田市大字林之郷
2 原因	道路改良事業（上田小諸線）
3 調査日	平成14年11月28日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

林之郷遺跡群は、林之郷地籍で神川により形成された河岸段丘の第2段丘面に細長く分布する一連の遺跡の総称である。1988年及び1989年には、県営ほ場整備事業殿城地区に伴い発掘調査が行われた。1988年の調査では、A・B（後にA地区に吸収）・C地区を1989年の調査ではE地区を設定し調査が行われた。A・C地区では、奈良時代から平安時代にかけての集落跡が確認された。E地区では、古墳時代の集落が確認された。

平成14年6月13日に保護協議を行い、用地の買収の進み具合をみながら試掘調査を行うこととした。保護協議を踏まえ、平成14年11月28日に試掘調査を行った。狭いトレンチではあったが、1軒の堅穴住居を確認した。

調査の結果

Tr01・02・03を設定して調査を行った。当該事業予定地は林之郷遺跡A地区に隣接することから、集落の一部が当該地まで抜がっている可能性があった。Tr01・02は耕作土の下がシルト質或いは砂質の土層で非常に柔らかであった。遺構・遺物は確認されず、当該地区は氾濫原とも考えることができる。Tr03の土層は比較的締まっており、特に第4層は堅緻な土質であった。第2及び4層からは、土器の小片が確認された。第4層の上層部からはカマドを伴う堅穴住居跡が検出された。

主な出土遺物は次のとおりである。

Tr03（古代の土師器・須恵器の破片）



基本土層

	Tr 01	0
1		50
2		78
3		110
5		

	Tr 02	0
1		10
2		34
3		
5		90

	Tr 03	0
1		18
2		46
4		
5		80

- 1層：耕作土
- 2層：茶褐色土層（シルト質）
- 3層：黄褐色土層（シルト質）
- 4層：黒褐色土層（遺物包含層）
- 5層：砂礫層

第8図 林之郷遺跡群（道路改良事業）

(9) 常入遺跡群

1 調査地	上田市大字常田
2 原因	体育館建設
3 調査日	平成14年12月17日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

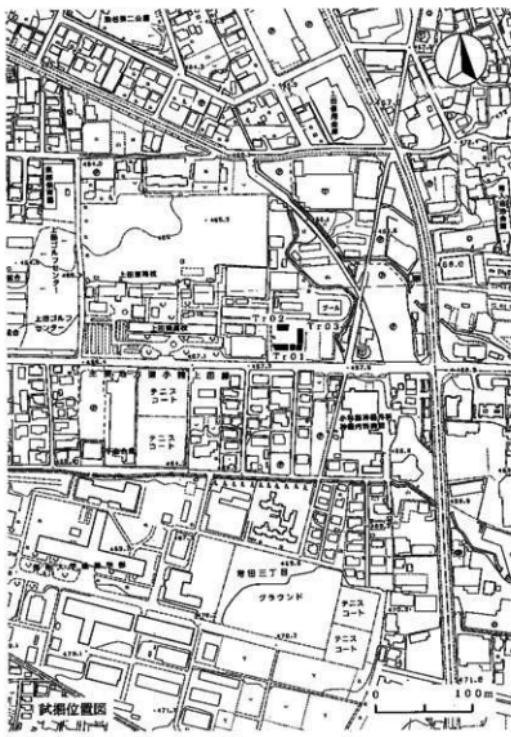
千曲川の第2段丘面で常入地籍を中心に最も広範に分布している遺跡が常入遺跡群である。「上田市の原始・古代文化」によると「この遺跡からは、いずれも弥生後期の箱清水式土器、前期から晩期にわたる土師・須恵器を出土し、一体の遺跡と思われる。また、西町田遺跡では、昭和41年の発掘調査の際に、完形土器18点を含む多量の遺物を出土し、この地方の標識的な遺跡といえるだろう」としている。しかし、遺跡が市街地にあり、その範囲が明確でない。

平成13年10月23日に公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議を行い、遺跡の範囲を確認することからも試掘調査を行うこととした。平成14年12月17日に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3を設定して調査を行った。調査地区の現況はテニスコートで地下には縦横無尽にヒュウム管が暗渠として埋められており、管を露出させると水が噴出するほどであった。その為、トレンチは不連続の短いものとなった。

各トレンチの表土はテニスコートを構成する砂と碎石による土層であった。その下の層も土地の造成による搅乱を受けており、明治時代以降のものと思われるレンガが出土している。また、T r 0 2から中世の土師質土器の小片1点が確認できたのみで、遺構・遺物は確認できなかった。



基本土層

	Tr 01	0
3	5	33
4		

Tr 02

	Tr 02	0
1	18	
2	49	
3	68	
4		

Tr 03

	Tr 03	0
1	26	
3	56	
4		

1層：表土（コート敷設の砂）

2層：黄褐色土層（砂を含む）

3層：灰褐色土層（砂を含む）

4層：灰白色土層（地山）

第9図 常入遺跡群（体育館建設）

(10) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字古里
2 原因	保育園建設（神科第2保育園）
3 調査日	平成15年2月13日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを5本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。今回の開発地域の西側に隣接する西之手遺跡では、1996年から1997年にかけて発掘調査が行われた。当該遺跡では古墳時代中期から後期を中心とした土器及び堅穴住居・掘立柱建物・溝などが確認されている。その為、50mと離れていない当該地区にも遺跡が拡がっていることが予想された。

平成13年10月23日に公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議を行い、事業の進捗状況をみながら試掘調査を行うこととした。平成15年2月13日に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果

Tr01・02・03・04・05を設定して調査を行った。耕作土及び溶脱層の下は灰褐色或いは黒褐色の土層で、包含層の形成は確認できなかった。また、条里水田の痕跡及びその他の遺構・遺物等も確認できなかった。



基本土層

Tr 01	0
1	16
2	48
6	

Tr 02	0
1	6
2	28
3	38
6	

Tr 03	0
1	17
2	26
4	31
2	48
5	64
6	

Tr 04	0
1	15
2	35
6	

Tr 05	0
1	15
2	35
6	

- 1層：耕作土
- 2層：黄褐色土層
- 3層：青灰色土層（粘性をもつ）
- 4層：灰褐色土層（粘性をもつ）
- 5層：灰黒褐色土層（堅緻）
- 6層：黄茶褐色土層（地山・堅緻）

第10図 染屋台条里水田跡遺跡（保育園建設）

(11) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字住吉
2 原因	共同住宅建設
3 調査日	平成15年3月20日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査担当者	尾見智志

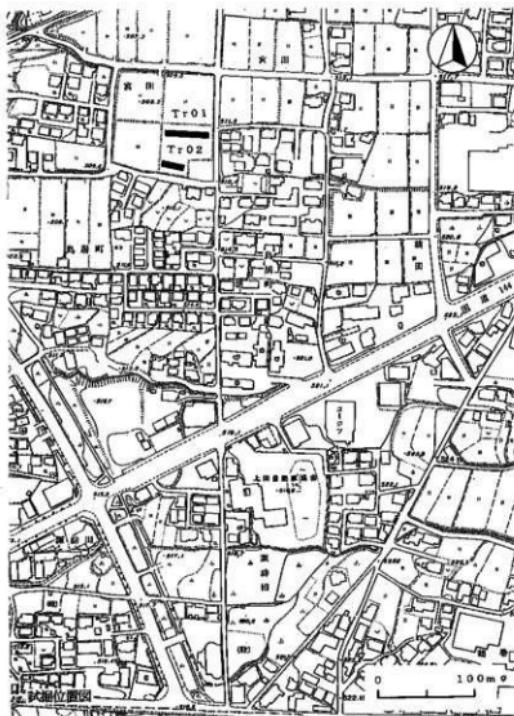
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。今回も事業主の御協力により試掘調査を行うことができた。

平成15年2月12日に現地調査を行い、工事範囲を確認した。その後、試掘の準備に取りかかった。平成15年3月20日に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかつた。

調査の結果

Tr 01・02を設定して調査を行った。耕作土の下は灰黄褐色の粘質の強い土層で、その下は地山であった。包含層の形成は確認できなかつた。また、条里水田の痕跡及びその他の遺構・遺物等も確認できなかつた。



基本土層

	0
1	18
2	38
4	

	0
1	22
2	42
3	

	0
1	22
2	60
3	

	0
1	24
2	38
4	

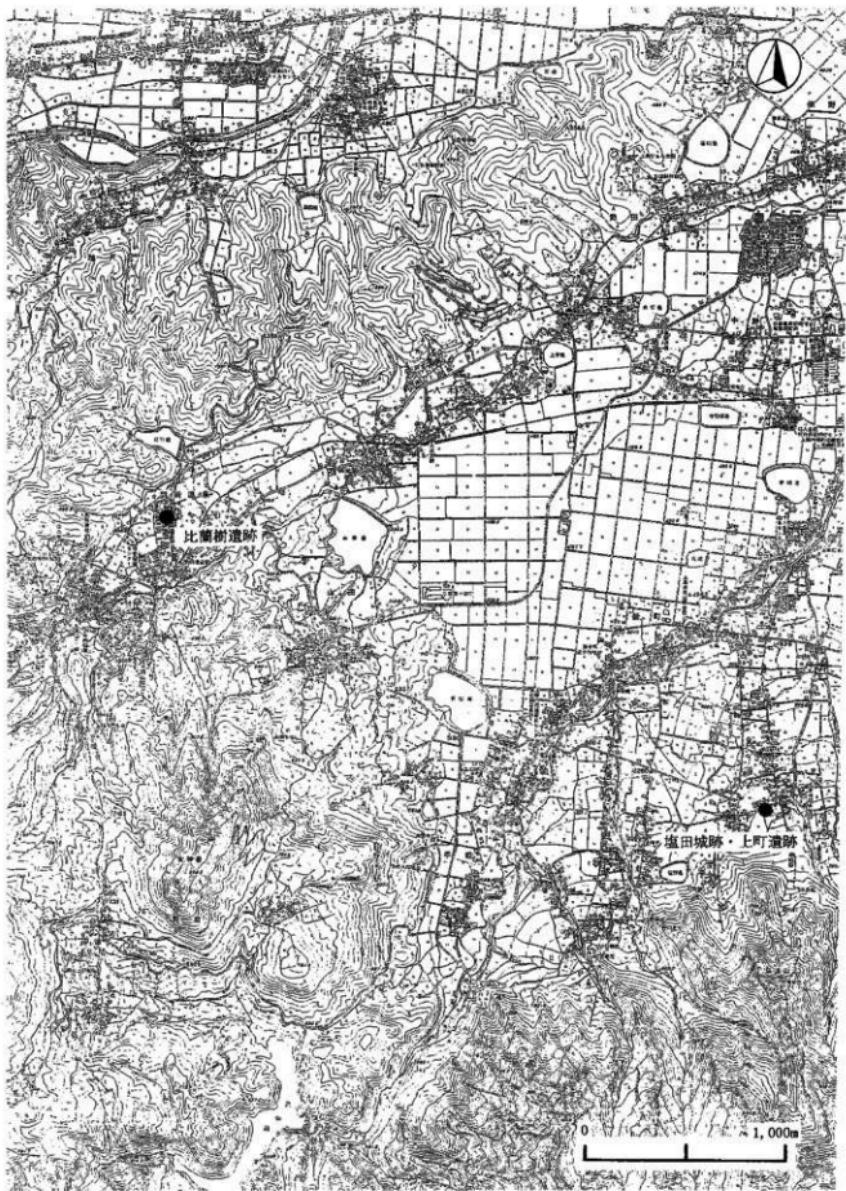
	0
1	26
2	42
4	

- 1層：耕作土
- 2層：灰黄褐色土層（粘性が強い）
- 3層：青灰色土層（粘性が強い）
- 4層：黄茶褐色土層（地山）

第11図 染屋台条里水田跡遺跡（共同住宅建設）









染屋台条里水田跡遺跡（山崎住宅）



染屋台条里水田跡遺跡（公民館）



金井裏遺跡



染屋台条里水田跡遺跡（店舗）



下宿在家遺跡



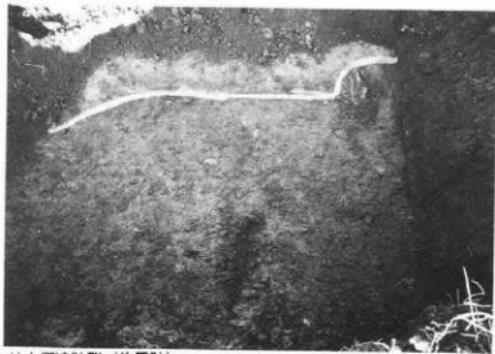
塩田城跡・上町遺跡



比蘭樹遺跡



林之鄉遺跡群



林之鄉遺跡群（住居跡）



常入遺跡群



染屋台条里水田跡遺跡（保育園）



染屋台条里水田跡遺跡（金井住宅）

調査報告書抄録

ふりがな	しないいせき		
書名	市内遺跡		
副書名	平成14年度市内遺跡発掘調査		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第93集		
編著者名	尾見智志		
編集機関	上田市教育委員会		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号	Tel.0268(23)5102	
発行年月日	2003年3月25日		

所収遺跡名	コード		試掘・事業 区域面積 (m ²)	調査原因
	市町村	遺跡番号		
染屋台条里水田跡遺跡	20203	52	2,235	共同住宅建設(山崎住宅)
染屋台条里水田跡遺跡		52	5,000	公民館建設
金井裏遺跡		58	3,403	店舗建設
染屋台条里水田跡遺跡		52	1,946	店舗建設
下宿在家遺跡		174	440	道路改良事業(三文寺南線)
塙田城跡・上町遺跡		231.234	628	個人住宅建設
比蘭樹遺跡		302	2,406	県営別所団地建替事業
森之郷遺跡群		25	2,500	道路改良事業(上田小諸線)
常入遺跡群		57	1,000	体育館建設(上田東高等学校)
染屋台条里水田跡遺跡		52	3,300	保育園移転改築事業(神科第二保育園)
染屋台条里水田跡遺跡		52	1,481	共同住宅建設(金井住宅)

※ 遺跡番号の()内は「上田市の原始・古代文化」(上田市教育委員会1977年)に記載された遺跡番号である。

上田市文化財報告書 第93集

市内遺跡

平成14年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成15年3月25日
発行者 上田市
上田市教育委員会
印刷 田口印刷株式会社

